

福島県PTA連合会会報  
第58号\_H14.07.10

# P T A ふ く し ま

## 第 58 号

福島県PTA連合会  
編集/調査広報委員会  
印刷/泉印刷所



## 親子学習

夏休みを間近にして  
子どもと親とが一緒になって  
救急法の学習をしました。

親と子どもとが一緒に学び、  
体験したことは、学習内容の習  
得はもちろんですが、プラス  
アルファがいっぱい付きました。

▼写真提供 福島市立水原小学校



**県P連スローガン** 子と親とが 共に育つ PTA活動を!





福島県PTA連合会

会長 早川 敬介

いよいよ完全学校週五日制が実施され、総合的な学習の時間へのPTAとしての対応や週休二日制への地域での対応にむけての取り組みを実践していく時期となりました。これまで研究大会などにおいてPTA本来の目的の一つである会員研修を、親としての学習、即ち「親学」を基調とした研修活動に重点を置くことをお話ししてまいりましたが、今こそこれまでの研修成果をもとに、わたしたち親一人一人が積極的に実践・行動していく時期であります。

子どもに「ゆとり」を確保し、学校だけでなく家庭や地域社会を豊富な生活体験、社会体験、自然体験の機会を与える教育の場とし、子どもたちが生活の中で豊かな感性や社会性を養うように努めるべく、家庭を含む地域社会でその特性を生かした環境づくりをどのように創りだし、推進していくのかを真剣に考え、実践していくことが、わたしたち大人社会に求められております。

総合型地域スポーツクラブや子どもクラブなども実施されます

が、それには長期に亘る地域住民としてのわたしたち一人一人の積極的な参画と協力がが必要です。県教育委員会から「うつくしま教育改革推進プログラム」や平成十五年度県立高等学校入学者選抜の変更、予てより要望いたして参りました三十人学級が小学一年・中学一年に導入されるなど、諸施策が発表、実施されております。

わたしたちPTAは、家庭・学校・地域社会の三者を結ぶ懸け橋として、また連携をとる核として、その役割を担うべく、未来の社会に大いにかかわる子どもたちのための環境づくりと地域全体の教育力向上のための行政側の取り組みにも積極的に参画・協力して参りたいと思っております。

今日ほど親が、「本気で子どもに向かい合い、子育てすること」の実践を求められる時代はありません。家庭での教育を全ての教育の原点として、夢ある次世代を創るために、親として共に学び、そして行動していきたいと思っております。

平成十四年度  
福島県PTA連合会役員等一覧

- 会長 早川 敬介 (郡山市P連・会長)
- 副会長 小松 良行 (福島市P連・会長)
- 熊本 光義 (西白河郡市P連・会長)
- 林 憲一 (会津若松市P連・会長)
- 但野 義和 (相馬地方P連・会長)
- 加藤 征男 (県小学校長会長)
- 荒海 健二 (県中学校長会長)
- 監事 平 館 泉 (安達地方P連・会長)
- 小林 芳信 (耶麻地方P連・会長)
- 佐藤 友宏 (いわき市P連・会長)
- 白石 高志 (田村郡P連・会長)
- 貝田 美郎 (南会津郡P連・会長)
- 山田 和江 (母 親 代 表)
- 山田 和江 (母 親 代 表)
- 遠藤 静子 (山 田 北)
- 塩田 米子 (会 津)
- 手島 まり子 (浜)
- 芳賀 裕 (元会長)
- 山岸 清 (元会長)
- 須田 尚 (達南P連・会長)
- 関根 隆夫 (伊達地方P連・会長)
- 添田 孝利 (岩瀬地区P連・会長)
- 野崎 光広 (石川郡P連・会長)
- 星 和典 (東白川郡P連・会長)
- 安達 壽人 (北会津地区P連・会長)
- 目黒 和宏 (両沼地区P連・会長)
- 荒井 誠一 (大沼郡P連・会長)
- 猪狩 雄一 (双葉郡P連・会長)
- 古内 利勝 (原北Pロック代表)
- 伊藤 勝徳 (原中Pロック代表)
- 大塚 睦彦 (原南Pロック代表)
- 森 武久 (会津Pロック代表)
- 山田 明 (南会津Pロック代表)
- 高倉 胤尚 (相双Pロック代表)
- 鈴木 雅之 (いわきPロック代表)

第37回県PTA広報紙  
・学校新聞コンクール  
晴れの受賞校

第三十七回PTA広報紙・小中学校新聞コンクールは、平成十四年四月十六日福島県新聞社で、福島県PTA連合会、福島県新聞社主催のもとで審査が行われた。

応募作品は、PTA広報紙に百十三校、学校新聞に八校が応募し、審査の結果、以下の二十三校が入選した。

- 〔栃の実〕 (郡山・栃山神小P)
- ◆入選
- 〔西陵〕 (岩瀬・西袋一小P)
- 〔ささや〕 (福島・笹谷小P)
- 〔かしの木〕 (福島・蓬萊東小P)
- 〔鶴翔〕 (会津若松・鶴城小P)
- 〔しゃくなげ〕 (福島・岳陽中P)
- 〔おさらぎ〕 (福島・福大附属小P)
- 〔SAZANKA〕 (福島・平野中P)
- 〔せきもと〕 (伊達・堰本小P)
- 〔みなみ〕 (安達・二本松南小P)
- 〔さくらしめず〕 (東白川・棚倉小P)
- 〔東雲〕 (岩瀬・長沼東小P)
- 〔みどりの松〕 (いわき・草野小P)
- ◆最優秀賞
- 〔学校新聞の部〕
- ◆最優秀賞
- 〔天行は健なり〕 郡山市立行健中学校
- ◆優秀賞
- 相馬市立中村第一中学校
- ◆入選
- 須賀川市立第三中学校
- ◆優秀賞
- 〔菜根〕 (郡山・郡山一中P)
- 〔王老杉〕 (福島・野田中P)
- 〔中央台南小〕 (いわき・中央台南小P)
- 〔そだち〕 (大沼・本郷一小P)
- 〔稲蜂〕 (双葉・幾代橋小P)



# 榎葉北小「すずかけ」

## 榎葉町立榎葉北小学校

私達は、榎葉北小学校 P T A 文化委員会の活動の一つとして「すずかけ」広報紙を年三〜四回発行しています。

どこの学校でも広報紙に携わる委員会は大変だと思えます。私達の学校でもなかなか委員になってくれる人がいなくなったりと大変なようです。でも、実際にこれに携わった方々は、一年の活動を終えるころにはやって良かったと言ってくれています。

活動の仕方は委員の方に取材

離から撮ればよりいいものがとれ

最終的に編集班でまとめて形にするというやり方をとっています。この「すずかけ」は子供から大人まで楽しめる広報紙でありたいということから、写真をふんだんに使い、見て楽しい、読んで楽しむ目標にいろいろなシーンを紙面に表現できたらと思っています。写真を撮るにもどんな方向や距離から撮ればよりいいものがとれるかを考えたり、子供たちにアンケートに答えてもらい集計したり、地域の方々の生の声を取材したりといろいろな内容を盛り込もうとアイデアを出したり、とにかく委員さんの頑張りには頭の下がる思いです。また、編集する段階になると見出しを何にするかとか、レイアウトをどんなふうにするかとか、なかなか前に進まなくて時間のかかることもしばしば……でも出来上がってみると、ホッとすると同時に喜びも大きいものです。そして今回のように大きな賞をいただけるのは何にも変えがたい喜びです。「やってよかった広報紙作成活動」そんなところだと思っています。

### 県P連の今年度の主な事業

月 日	事業名等
6月27日(木)	・小・中学校別懇談会 (各郡市P代表出席)
8月23日(金) 24日(土)	・日P全国研究大会埼玉大会 (さいたま市他) 〔分科会(金) 全体会(土)〕
9月6日(金) 7日(土)	・東北P研究大会盛岡大会 〔分科会(金) 全体会(土)〕
9月28日(土) 29日(日)	・県P研究大会福島大会 〔分科会(金) 全体会(土)〕
10月11日(金)	・母親代表者懇談会 (各郡市代表2名)
2月15日(土) 3月2日(日)	・災害事故防止習字・ポスター コンクール展 (応募関係など11月に各学校 に送付)
3月末日まで	・学校新聞、PTA広報紙コンク ール作品募集 (詳細は11月に各学校に送付)

十四年度は文化委員会からすずかけ広報委員会に専門委員会の名称が変わり、「すずかけ」の紙面も新しい形ができてくるかと思えます。これからの活動にも期待しながら、あらためて受賞の喜びをかみしめ、広報紙作成に協力して下さった先生方、子供たち、保護者の皆様そして地域の方々に深く感謝したいと思います。本当にありがとうございます。

(文化委員長 小松崎幸枝子)

# 平野小「ひらの」

## 福島市立平野小学校

私達広報委員会は、広報紙「ひらの」の制作・発行を中心に活動しています。仕事を持っている方も多い中、週に一度の編集会議を開き、皆さんにいろいろなアイデアを出していただきながら、制作に取り組んでいます。お茶を飲みながら、情報交換をしたり、楽しい雰囲気の中で広報紙を作っています。PTA会員の方々に、子どもたちの学校での様子や、PTA活動などをよく知っていただきたいので、学校の行事、各委員会の活動はできるだけ、取材・写真撮影をするように心がけています。

お年寄りとの交流などがあり、私達も楽しい時間を過ごしました。いろんな事にチャレンジする子どもたちのすごいパワーと優しい心に触れ、私達も元気をもらいました。楽しく取材できた事が、そのまま紙面に表現できたと思っています。

「ひらの」の特徴としては、「エプロン隊」というキャラクターが登場する事です。五年前から、学校の様子や子どもたちの活躍を紙面で紹介してきました。

これからも家庭で広報紙を広げて、お父さん、お母さんと子どもたちが楽しくコミュニケーションができるような、広報紙を作っていきます。

「ひらの」百七号では、「総合的な学習の時間」を特集し、エプロン隊が皆さんに紹介しました。先生方の御協力をいただき、全年の授業を取材する事ができました。地域の中での体験学習や、

今回思いがけず、すばらしい賞を頂き、本当にありがとうございます。これからの活動の励みになりたいと思います。御協力いただいた先生方、PTA会員の皆様にご心より感謝申し上げます。今後「ひらの」が皆さんに親しんでいただけるよう、委員会一同がんばってまいります。

(広報委員長 橋本 利子)





第十回県P連

小・中学校別懇談会開かれる

六月二十七日(木) 県青少年会館で、小・中学校別懇談会が開かれた。今年、『完全学校週五日制のもと、子どもたちの土・日曜日の過ごし方について考える』のテーマのもと、小学校部会は「土・日曜日の子どもたちの生活状況と課題」「土・日曜日に対するPTA・地域などの対応の現状と課題」。また、中学校部会では、「土・日曜日の子どもたちの生活状況と課題・PTA・地域などの対応について」「高校入試の改革とPTAの対応」の二点について話し合いがなされた。

【小学校部会】 前述の二点について、小グループによる討議が行われ、その後全体協議が持たれた。休みの日、子どもたちは家族と過ごしたり、スポーツに行ったり、公民館等のイベントに参加したりとおおむね自由な時間が



【中学校部会】

土・日曜日の子どもたちの生活状況と課題では、部活動・学力低下・受け皿について話題が集中した。その中で、中学校における部活動の意義が再確認されたが、三年生の六・七月以降の動向については今後の課題として挙げられた。PTA・地域などの対応については、一年間ぐらいの様子を見てから再



増えたことを喜んでいられる。しかし、何もするところがなく家でテレビゲーム等で過ごしているという不安の声も聞かれた。地域での対応では、行政サイド・PTAともに工夫した取り組みがなされているが、地域により取り組みに差が感じられること、子どもを育てる活動を誰かに頼るのではなく、親がもっと主体的に参加することが望まれるとともに、学校も、情報の提供や休みの過ごし方について積極的に指導してほしいことなどが話し合われた。

研修部長(大森小学校長) 門脇 孝徳

編集後記

度考えるべきとの意見が多かった。高校入試制度の改革とPTAの対応については、まだ具体的に保護者・生徒に理解されていないので今後の動向に注目していくこと。実質的には、従来と大きく変わっていないのではないかと意見も多く出された。入試のための学力向上ではなく、人生設計のための夢を実現する学力向上に子どもたちを努力させたいこと、入試制度の根本的な改革なくして、学力云々はそぐわないのでは意見も出された。

会計部長(金谷小学校長) 山浦 勝也

今年度から完全学校週五日制の実施によって、子どもたちには土・日・日曜日の始まり。これに伴う親たちの対応。何年も前から分かっていて、準備をしてきたつもりなのに、現実はどういうことで、六月二十七日の小中別懇談会では、このことについて、バズセッション方式で行いました。学校では教育内容の削減、総合的な学習の時間の実施等々新しい指導要領による教育活動が展開されています。このようなことからこそわした親は、これらに主体的に関わるため、今こそ学習が求められている。学習する親(個々人)とPTA(集団)が問われていると考えます。

守りましょう! 命を!

今年、県内で異常なほど交通事故による死亡者が多いことは、皆様ご存じのとおりです。本会では、六人の子どもさん(甲斐川)を贈っておりますが、内三人は交通事故によるものです。また、死亡には至らなかった事故(自転車と車の接触など)は数多く発生しております。 「夏の交通事故防止県民総ぐるみ運動」が「あわてるな はやる心に ベルト締め」のスローガンのもと、七月十六日(火)から二十五日(木)までの十日間行われます。三つの重点(1悪質・危険な運転と過労運転の追放 2子どもと高齢者の交通事故防止 3シートベルトとチャイルドシートの着用の徹底)を中心に、実状により内容を付加するなどして、この機会に、単P、地区、家庭ではもちろんのこと、部活やスポ少などの終了時にも「事故防止のためのきめ細かな指導(語り合い)」をお願いしたいと思います。

安全互助会から

平成14年6月末現在の加入状況

- 1. 加入校・園数 小・中学校 752校、幼稚園 189園、養護学校 5校 合計 946校・園
2. 加入コース Aコース 164校・40園、Bコース 562校・140園、Cコース 31校・9園。中途加入もできます。ぜひ、ご検討ください。問い合わせなどは県P連事務局に(下記TEL・FAX番号)お願いします。

学校・PTA活動支援補償制度への加入を再度ご検討ください。

特例として、年度中途加入を検討しておりますので、県PTA連合会にご連絡ください。

福島県PTA連合会 (TEL 024-545-5982 FAX 024-545-5990)

《提携損保》 共栄火災海上保険相互会社

〒960-8035 福島市本町5-5 殖銀フコク生命ビル7階

TEL 024-523-3507 FAX 024-523-3509